

# 日赤あおもり



No.  
408  
2023.秋冬



青森県支部

日本赤十字社

日本赤十字社青森県支部 〒030-0861 青森市長島1丁目3番1号 TEL 017-722-2011 <https://www.jrc.or.jp/chapter/aomori/>



青少年赤十字創設100周年記念事業として制作したフォトモザイクアート（右）

## 特集

## 令和4年度における新たな取り組み

青少年赤十字創設100周年記念事業 フォトモザイクアート

赤十字奉仕団合同防災研修会

ACTION ! BOUSAI キャンプフェス

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

—— 青森県支部からのお知らせ ——

令和5年度 赤十字会員増強・活動資金増収運動 実施中！

赤十字会員の加入、活動資金（会費・寄付金）のご協力をお願いします。

令和4年度3月「ACTION ! 防災・減災」

令和5年3月1日(水)～3月31日(金)

特設Webサイト <https://www.jrc.or.jp/1p/bousai/>

青森県支部公式ソーシャルメディアを開設しました！

青森県内の赤十字関連の情報を中心に発信していきます。  
赤十字の輪を広げるために、皆さんフォローをお願いします！



<https://twitter.com/nissekiaomori>  
<https://www.facebook.com/nissekiaomori>  
[https://www.instagram.com/nisseki\\_aomori/](https://www.instagram.com/nisseki_aomori/)

Twitter ➤



Facebook ➤



Instagram ➤



# 青少年赤十字創設100周年「フォトモザイクアート」を制作

## ～これまでの歩みを振り返り、未来へ活動をつなぐ～

日本赤十字社が行う青少年赤十字事業が、2022年(令和4年)5月5日に創設から100年を迎えました。

青森県支部では、創設100周年にまつわる活動として、「100年分の活動を形に」をテーマに、青少年赤十字メンバーの活動意欲と一体感を高めるため、県内の青少年赤十字加盟校から提供された活動写真などを使用したフォトモザイクアートを制作しました。

モザイクアートは、青少年赤十字創設100周年記念のロゴマークを用い、大きさが縦横2メートルで、持ち運び可能なバースタンド幕の仕様。ロゴマーク制作には、およそ1万枚の写真を使用しました。近くで見ると青少年赤十字メンバーなどが活躍する姿や昔懐かしい行事の様子などの写真が散りばめられており、これまでの歩みを振り返ることができます。

昨年10月22日、3年ぶりに開催された青森県高等学校総合文化祭の青少年赤十字部門大会に参加した青少年赤十字指導者をはじめ、多くのメンバーの前で完成したモザイクアートがお披露目されました。

モザイクアート制作のために活動写真を提供された加盟校や指導者及びメンバーなど関係者の皆様のご協力に対し、心から感謝を申し上げます。

青森県支部の青少年赤十字事業は、2027年(令和9年)に創設100周年を迎えます。

青森県支部では、これからも豊かな心を持った青少年の育成に力を入れ、この活動を未来へとつなげて参りますので、関係者の皆様をはじめ、県民の皆様のご協力とご支援をよろしくお願いします。

創設100周年にまつわる活動や青少年赤十字が行う取り組みに関するお問い合わせは、総務課 青少年・ボランティア係まで。



完成したフォトモザイクアート



当時の活動の様子が垣間見える写真

# 災害時のボランティア活動について、近隣間で再確認

## ～県内3会場で合同防災研修会を初開催～

青森県支部は、近年多発する自然災害に際し、災害時のボランティア活動を円滑に進めるため、平時における近隣奉仕団間の連携強化を図ることを目的に、本年度新たに、「赤十字奉仕団合同防災研修会」を開催しました。

昨年11月に県内3会場(十和田市、三沢市、中泊町小泊)で開催した研修会には、6団が参加し、十和田市赤十字奉仕団と七戸町赤十字奉仕団、三沢市赤十字奉仕団と六戸町赤十字奉仕団、五所川原市赤十字奉仕団と中泊町分区小泊赤十字奉仕団との間で各々研修が行われました。

研修会では、防災士による講演や支部職員による防災に関する講義、三角巾を使った包帯法や一次救命処置など、災害時のボランティア活動に必要となる知識や技術の習得が行われたほか、自助力・共助力の強化や災害時における近隣奉仕団との連携したボランティア活動について、活発な意見交換が行われました。

参加者からは、「とてもいい機会になった。これからも近隣の奉仕団と協力していきたい」、「三角巾を使った、けがの手当てを楽しく学ぶことができた」、「来年度もまた研修に参加したい」などの感想が寄せられました。

いざという時のための日頃の備えが、有事の際の減災に繋がっていきます。皆さんもできることからやってみてはいかがでしょうか。

研修会は、本年度に引き続き、来年度も開催を予定しています。研修会に関するお問い合わせは、総務課 青少年・ボランティア係まで。



三角巾を使った手当の方法を練習する団員



防災士である工藤氏の講話に耳を傾ける団員

# キャンプを通じた災害への備えを！

## ～ACTION ! BOUSAIキャンプフェスを初開催～

青森県支部は、昨年9月17日～18日の2日間、「ACTION ! BOUSAIキャンプフェス」(共催：株式会社エフエム青森)を開催しました。

イベントは、9月の「ACTION ! 防災・減災」の取り組みの一環として初めて開催したもので、会場となった青森市のモヤヒルズオートキャンプ場には事前申し込みをした県内の家族連れなど100名が参集し、災害時を想定した普段と一味違ったキャンプ体験を行いました。

青森県オート・キャンプ協会、青森県防災士会、青森地方気象台の協力により開催したイベントでは、救急法や避難所・救援物資の展示、災害時にも役立つアウトドア用品や普段の生活にも役立つアウトドア用食品の調理体験などを行ったほか、お天気クイズへの挑戦やハザードマップの見方を確認しました。

参加者からは、「防災・減災のために何か特別に備えるのではなく、普段の生活が備えになるようにしたい」、「改めて、キャンプ用品やキャンプ飯が災害時にも役立つことが認識できた」などの感想が寄せられました。

また、同日、モヤヒルズで開催された株式会社エフエム青森35周年企画イベントの展示エリアにおいて、パネル展示や子ども用救護服の試着、心肺蘇生などの各種体験コーナーを設け、会場を訪れた方に赤十字活動への理解と運動への参画を促しました。

【キャンプフェスの様子】



心肺蘇生を学ぶ参加者



アルミ缶を使った炊飯体験



ファイヤースターターを使った火起こし体験



朝食用のアウトドア用食品を受け取る参加者

【展示エリアの様子】



## 第1ブロック高等学校青少年赤十字交流会へ高校生メンバーを派遣

### ～高校生メンバー同士が積極的に交流～

青森県支部は、昨年10月1日～2日の2日間、「ゆとりろ磐梯熱海」(郡山市)を会場に開催された「第1ブロック高等学校青少年赤十字交流会」(主催:福島県支部)に、青少年赤十字高校生メンバー4名と青少年赤十字指導者1名を派遣しました。

交流会は、第1ブロック支部内の高校生メンバーが、日常の活動や研究の成果を発表することを通じ、意識と意欲を高めることや、自主性やリーダーシップを身に付け、交流を通して県境を越えて相互理解を深めることなどを目的に開催されました。

1日目は各道県の活動紹介、グループワーク、「平和」「環境」「献血」の3つのテーマについてのグループディスカッションが行われたほか、情報交換と今後の活動に向けた意見交換が行われました。

2日目は会場を福島県環境創造センター交流棟「コミュタン福島」(三春町)に移し、2011年3月11日に発生した東日本大震災や原発に関する問題について学び、学習した内容についてグループディスカッションが行われたほか、各グループの意見が発表されました。

本県から派遣された高校生メンバーらは、様々な場面での活躍が見られ、終始笑顔を絶やさず、楽しんで取り組む姿が垣間みえました。

派遣された高校生メンバーからは、「充実した2日間だった。他道県の活動内容を参考に、部活動をさらに発展させていきたい」、「この交流会を通じて、沢山学ぶことが出来た」などの感想が寄せられました。



オンライン参加メンバーとの交流する  
本県メンバー(中央)

## 大雨災害の被災地へ救援物資を配布

### ～被災者に寄り添った活動を展開～

停滞する前線の影響により、昨年8月3日から降り続いた大雨は、津軽地方を中心に県内各地に大きな被害をもたらしました。

青森県支部では気象情報等を注視し、発災直後から被災地区分区と連携し、毛布や緊急セット、安眠セットなどの救援物資を、弘前市や五所川原市、鰐ヶ沢町や中泊町などの9市町村の避難所等へ届けました。

**【救援物資の配布】** 毛布…824枚、緊急セット…383セット、  
安眠セット…131セット、タオルケット…566枚

また、被災された方々の生活再建の一助とするため、「令和4年8月3日からの大雨災害支援金」(配分先:青森県)を昨年12月28日まで受け付けを行いました。お寄せいただいた支援金は、青森県に設置された支援金配分委員会を通じて、全額が被災された方々へ届けられます。

#### 【義援金送金額】

「令和4年8月3日からの大雨災害支援金」

(送金先: 青森県)

101,298,457円(令和5年1月31日現在)



岩手県支部から提供された救援物資を搬入する支部職員

## 十和田市と子育て支援などに関する連携協定を締結

### ～保育施設職員等を対象とした

#### 講習会を通じて安心・安全な子育てを支援～

昨年8月23日、青森県支部は地域包括ケアへの取り組みの一環として、十和田市と子育て支援などに関する連携協定を締結しました。子育て支援などに関して、自治体との連携協定を結ぶのは青森県内では初めて。

今後は、日本赤十字社が行う救急法や幼児安全法の講習会などを通じて、子どもの成長や子育てを地域社会全体で見守り、安全・安心な地域づくりに関して連携して取り組んでいきます。

本年度は、十和田市内の放課後児童健全育成施設(なかよし会)の職員等を対象に各種講習会を開催し、同市の子育て支援に貢献していきます。

本協定についての詳細、各種講習等のお問い合わせは事業推進課まで。



協定締結後に記念撮影に応じる  
十和田市の小山田市長(右)

## 赤十字運動の推進のために

### ～明治安田生命保険相互会社が活動資金を寄付～

明治安田生命保険相互会社青森支社より、活動資金が寄せられました。

この度の寄付は、明治安田生命保険相互会社より赤十字運動推進に関する申し出があり、同社が実施する『感謝のエール』アクションキャンペーンの一環として、日本赤十字社各都道府県支社に対し、活動資金の寄付が行われたものです。

昨年8月31日、この度の寄付に対する贈呈式に出席した神登喜彦 事務局長へ、同社青森支社の梅野勝義支社長から目録が手渡されました。

寄せられた活動資金は、災害時における救護活動をはじめ、「人びとのいのちと健康、尊厳を守る」赤十字活動に充てられます。

#### 【明治安田生命保険相互会社と包括パートナーシップ協定を締結】

昨年4月28日、日本赤十字社と同社は、お互いを思いやり、助け合い、尊重し合う、また、未来の世代を想う地域づくりを共に取り組むことに合意し、包括パートナーシップ協定を締結しました。

今後、「地域づくり・未来世代」応援プロジェクトとして、地域社会の活性化や課題解決に向け、両社の有するノウハウなどを融合した取り組みを展開する予定です。

「日本赤十字社青森県支社への寄付金」  
目録贈呈式



目録を手渡す明治安田生命保険相互会社  
青森支社の梅野支社長(右)

## 学生有志による奉仕団を結成

### ～県立保健大学めいと赤十字奉仕団が結成式～

昨年10月2日、青森県赤十字血液センターにおいて、「青森県立保健大学めいと赤十字奉仕団」の結成式が行われました。

青森県支部内には、地域奉仕団、青年奉仕団、特殊奉仕団からなる赤十字奉仕団が組織され、59団のべ7,728名(令和4年4月1日現在)の団員が地域に根ざした活動を継続しており、そのうち、青年奉仕団は、概ね10～20代の若者が中心となり活動しています。

この度、県立保健大学の学生有志により新たに結成された奉仕団は、青年奉仕団に位置づけられ、青年奉仕団としては4団目、大学生による奉仕団としては県内で初めてとなります。

式では、委嘱状の交付や青年奉仕団のロゴをあしらった団旗が手渡されました。

団旗を受け取った委員長で、県立保健大学3年の藤島右京さんからは、「まずは身近にできる活動から始め、将来は防災・減災へと取り組みを広げていきたい。また、災害発生時には、地域のニーズに即応できるようにしたい」と、今後の活動に対する抱負が寄せられました。

青森県支部では、若年層の赤十字運動の参画を呼び掛けています。ボランティア活動に興味をお持ちの大学生や専門学生は、総務課 青少年・ボランティア係までお問い合わせください。



記念写真に納まるめいと奉仕団の学生たち

## 人びとのいのちと健康、尊厳を守る活動のために

### ～(一社)青森県空調衛生工事業協会が活動資金を寄付～

一般社団法人青森県空調衛生工事業協会より、活動資金が寄せられました。

この度の寄付は、令和3年5月に開催された同協会理事会において承認され発足した「友志の会」が、一昨年と昨年に開催したチャリティーゴルフコンペにおいて参加者から寄せられたチャリティー金を青森県支部に対して寄付を行ったものです。

昨年12月20日、同協会の須藤朗孝会長、阿保秀樹副会長が青森県支部を訪れ、この度の寄付にかかる目録の贈呈式が行われました。

寄せられた活動資金は、災害時における救護活動をはじめ、「人びとのいのちと健康、尊厳を守る」赤十字活動に充てられます。



目録を手渡す(一社)青森県空調衛生工事業協会の須藤会長(左)

# 赤十字活動資金へのご協力をお願いします。

## ～赤十字運動が 県内一斉にスタート～

昨年度は多くの県民の皆様に赤十字活動にご賛同・ご支援をいただき、総額1億9,687万6千円の赤十字活動資金(会費・寄付金)をお寄せいただきました。赤十字活動の推進についてご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

お寄せいただきました活動資金のうち、1億6,574万1千円を主に「苦しんでいる人びとを救うための費用」として活用させていただきました。

その内訳は、「国内外における救護活動」(国内災害対応のための訓練や災害救護装備の整備強化、国際活動、看護師養成など)として5,004万5千円、「ボランティアや青少年の育成」(地域活動やマンパワーの育成)として4,518万5千円、「救急法などの普及」(保健医療や安全な暮らしのためなど)として2,263万4千円、「災害義援金の送金」(令和3年台風第9号等大雨災害義援金として全国の皆さまから寄せられ、お預かりした災害義援金全額を青森県に設置された義援金配分委員会へ送金した金額)として4,787万7千円です。

日本赤十字社は、「救うを託されている」団体として、災害や紛争、感染症で失われるいのちを守り、その苦痛を限りなく軽減するための活動のほか、地域や教育現場における平時からの防災・減災の知識・技術の普及推進や公的機関・他団体と連携した地域での講習普及などによる地域のレジリエンス(回復力)の強化に取り組んでいます。

こうした活動はすべて、県民の皆さまから寄せられる会費と寄付金によって支えられています。

今年も、2月1日から“救うを託されている。あなたとともに。”をスローガンに、「令和5年度赤十字会員増強・活動資金増収運動」を県内一斉に実施いたします。

県民の皆様からのあたたかいご支援を心よりお待ちしています。

赤十字会員増強・活動資金増収運動に関するお問い合わせは、総務課 会員係まで。

### “知る、見る”赤十字

#### 佐野常民生誕200年 ～日本赤十字社を創った男の素顔～

2022年(令和4年)は、日本赤十字社の前身である「博愛社」の創設者であり、日本赤十字社の初代社長である佐野常民(佐賀藩出身)の生誕200年にあたることから、赤十字WEBミュージアム内で特別企画を公開しています。

幕末から明治を駆け抜けた一人の日本人がどのように「赤十字」と出会い、日本赤十字社の創設と発展に尽力したのか。日本における赤十字運動の充実・拡大に生涯を捧げた佐野常民の素顔に迫った内容となっています。

詳しくは、赤十字WEBミュージアム内の特設ページをご覧ください。

<https://www.jrc.or.jp/webmuseum/column/sano-200th/>

赤十字情報プラザ(日赤本社1階)においても、同企画展を開催しています。会期は、2022年10月4日から2023年3月までの予定で、創設者の素顔に迫る厳選した史料を展示しています。

\*新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事前予約制としています。お問い合わせは「赤十字情報プラザ」(☎03-3437-7580)まで。

### 赤十字ネットワークニュース

義援金は、災害により生命・財産に大きな被害を受けた方々に対し、被災者の当面の生活を支えることを目的としています。受け付けた義援金は被災された方々に迅速かつ公平に配分されます。現在受付中の国内災害義援金と受付期間は以下のとおりです。

#### ● 令和4年8月3日からの大雨災害義援金

受付期間: 2023年3月31日(金)まで

現在の配分先: 新潟県、石川県

日本赤十字社では、国内災害義援金のほかに海外救援金を受付しています。

海外救援金は、海外で大規模な災害や紛争などの緊急事態が発生した際に、被災地の赤十字社や日本赤十字社が現地で実施する救援活動・復興支援活動を支援するために役立てられます。受付中の海外救援金については、ホームページをご確認ください。

<https://www.jrc.or.jp/contribute/help/#kaigai>

### 献血にご協力くださる皆さんへ

献血のご協力にあたり以下の事項についてご確認くださいますよう、よろしくお願いいたします。

#### 1 献血の条件について

採血の種類	全血採血		成分採血	
	200mL	400mL	血漿	血小板
1回採血量	200mL	400mL	600mL以下(循環血液量の12%以内)	
年齢	16~69歳 女性:18~69歳	17~69歳 女性:18~69歳	18~69歳 女性:18~54歳	
	ただし、65~69歳の者については、60歳に達した日から65歳に達した日の前日までの間に採血が行われた者に限る。			
体重	男性45kg以上 女性40kg以上	男女50kg以上	男性45kg以上 女性40kg以上	
最高血圧	90mmHg以上	180mmHg未満		
最低血圧	50mmHg以上	110mmHg未満		
脈拍	40回/分以上	100回/分以下		
体温	37.5°C未満			

#### 2 献血をお受けできない基準について(一例)

- ①輸血や臓器移植を受けたことがある。
- ②3日以内の出血を伴う歯科治療や服薬(献血可能なお薬もございますので、お薬名をお知らせください。その場でお調べいたします)。※血圧、高脂血症、高尿酸値等の生活習慣病の薬は問題ございませんが、体調等を含め、当日の健診医が判断させていただきます。

- ③24時間以内のインフルエンザ予防接種や海外から4週間以内の帰国。

#### 3 献血のお願い

- ①空腹時の献血は体調不良を起こしやすいため、できましたら食事の摂取をお願いします。
- ②献血後の激しい運動やサウナは、危険ですので控えください。
- ③献血カードを持参していない方は、運転免許証等の本人確認できる証明書をご用意願います。

#### [献血ルーム受付時間]

##### 青森献血ルーム

- 成分献血 / 9:15~11:50、13:45~16:20
- 全血献血(400・200ml) / 9:15~12:45、13:45~17:00
- 定休日 / 12月31日、1月1日、毎週火曜日(令和4年10月より)

- 青森献血ルーム フリーライン 0120-649-489 青森市長島1丁目3番1号 日赤ビル4階
- 弘前献血ルーム「CoCoSA(ココサ)」 フリーライン 0120-768-489 弘前市駅前町8-1 大町タウンビル2階
- 青森県赤十字血液センターホームページ <https://www.bs.jrc.or.jp/th/aomori/index.html>

##### 弘前献血ルームCoCoSA

- 成分献血 / 9:30~11:50、13:45~16:20
- 全血献血(400・200ml) / 9:30~12:30、13:45~17:00
- 定休日 / 12月31日、1月1日



救うを託されている。あなたとともに。

日本赤十字社 青森県支部

この度の災害により被災にあわれた方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

まさに昨年と時期を同じくして、8月3日から大雨による土砂崩れや河川の氾濫などにより、県内1市町村で災害教習会が実施され、避難所などへ寄付金の救援物資を搬入したほか、義援金の受け入れを行なって、被災者支援のための救援活動を展開いたしました。

幸いに人の被害はありませんでしたが、青森県支部では、被災市町村の要請に基づき、避難所などへ寄付金の救援物資を搬入したほか、義援金の受け入れを行なって、被災者支援のための救援活動を展開いたしました。

このような活動ができるように、赤十字の目的に賛同・ご支援いただき、思いを託していただいた県民の皆さんにはなりませんでした。

ご支援いただきました皆さんへ、心より深く感謝申し上げますとともに、一同も早く、それの生活を取り戻すことができるよう、青森県支部はこれ生らも活動を続けてまいります。

ご支援いただきました皆さんへ、心より深く感謝申し上げますとともに、一同も早く、それの生活を取り戻すことができるよう、青森県支部はこれ生らも活動を続けてまいります。

この度の災害により被災にあわれた方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

コロナ禍での主な赤十字の活動(令和4年度)

令和4年8月3日からの大雨災害

8月3日からの大雨災害影響で、特に津軽地方を中心に土砂災害や河川の氾濫、倒木や落木などが発生しました。災害直後から避難機関と連携し、被災者の避難や救援物資を搬入いたしました。

【救援物資の配布】  
● 救急包 ..... 824枚、緊急セット ..... 383セット  
支票セット ..... 131セット、クオカード ..... 596枚

クラウドナショナル救援隊

8月3日からの大雨災害影響で、特に津軽地方を中心に土砂災害や河川の氾濫、倒木や落木などが発生しました。災害直後から避難機関と連携し、被災者の避難や救援物資を搬入いたしました。

【ボランティアの育成/救急法などの普及】  
● 令和4年8月3日から8月10日まで、青森県支部は、クラウドナショナル救援隊と連携して、被災地の避難所や被災者宅などで被災者宅での避難訓練が実施されました。

【青少年赤十字メンバーの育成】  
● 令和4年8月3日から8月10日まで、青森県支部は、クラウドナショナル救援隊と連携して、被災地の避難所や被災者宅などで被災者宅での避難訓練が実施されました。

### 赤十字活動資金へのご協力をお願いします。



災害や感染症の脅威が訪れた時。

人は不安になる。恐怖に怯える。

けれど、人は互助し合い、前に進むことができる。

私たちは知っています。

大切な人を守ろうとする姿を。

災害に立ち向かうとする人たちの強さ。

そんな思いに応えて、ともに乗り越えていくために。

災害の現場で、赤十字の医師・看護師・ボランティアが活動をつづけます。

—— 救うを託されている。あなたとともに。

赤十字会員・活動資金の募集に関するお問い合わせは

ホームページ

日本赤十字社 青森県支部  
<http://www.jrc.or.jp/chapter/aomori/>

お電話で  
017-722-2011 緊急課まで

● 青森市役所、町村役場、消防署、警察署、青森市立病院、青森市立保健所、青森市立保健所(青森市立保健所)、青森市立保健所(青森市立保健所)、青森市立保健所(青森市立保健所)

郵便と面談 ○日本赤十字社青森県支部  
青森市長島1丁目3番1号赤ビル(青森公園通り)  
郵便局

○青森市役所、町村役場、消防署、警察署、青森市立保健所(青森市立保健所)、青森市立保健所(青森市立保健所)

### 献血ヒーロー募集中!



### 新型コロナウイルス感染症対策 実施中

献血に関するお問い合わせは、青森県赤十字血液センター 献血推進課まで ☎017-741-1512

#### 弘前献血ルームCoCoSA

■ 成分献血 / 9:30~11:50、13:45~16:20

■ 全血献血(400・200ml) / 9:30~12:30、13:45~17:00

■ 定休日 / 12月31日、1月1日